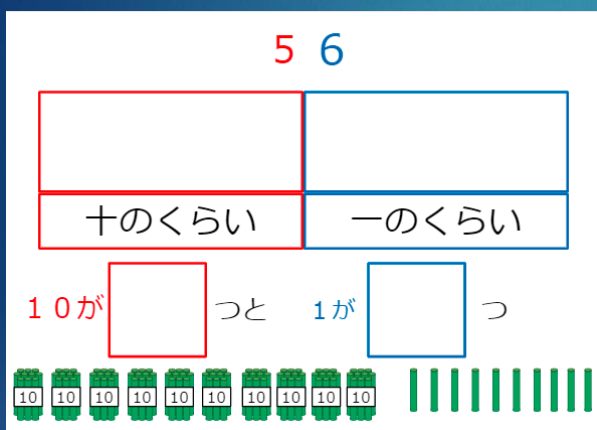
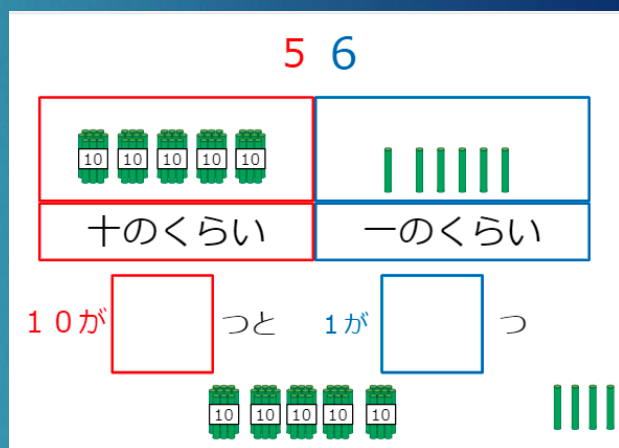


## 使い方を広げよう！！深めよう！！

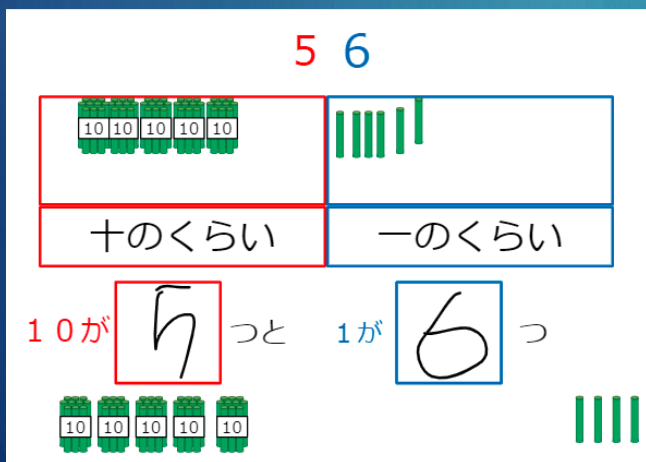
### 1年生 算数「大きいかず」 使用アプリ：スクールタクト



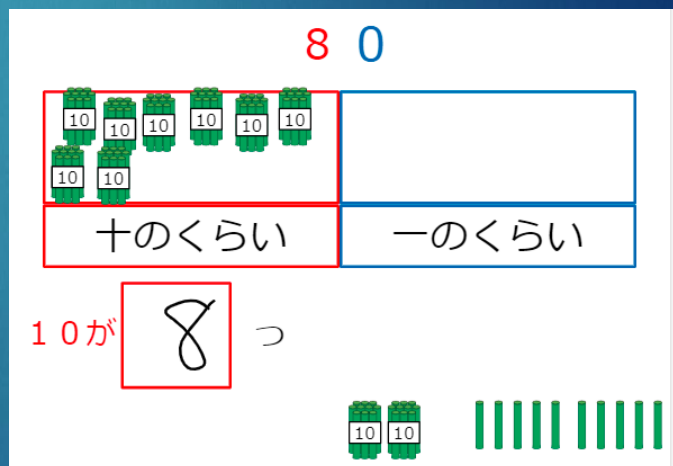
スクールタクトを使用した。上記のようなシートを用意した。



まず、数字に合わせて数え棒を動かす。指で動かすだけなので、数え棒がばらばらになったりすることなく、スムーズに活動ができた。



数え棒をもとに、10のまとまりがいくつ、1がいくつあるかを書く。

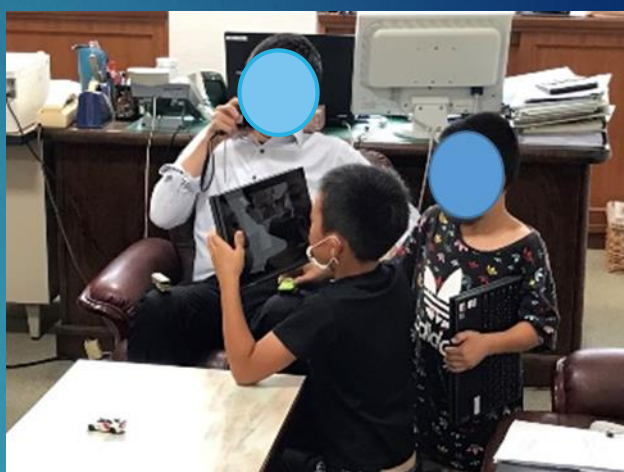
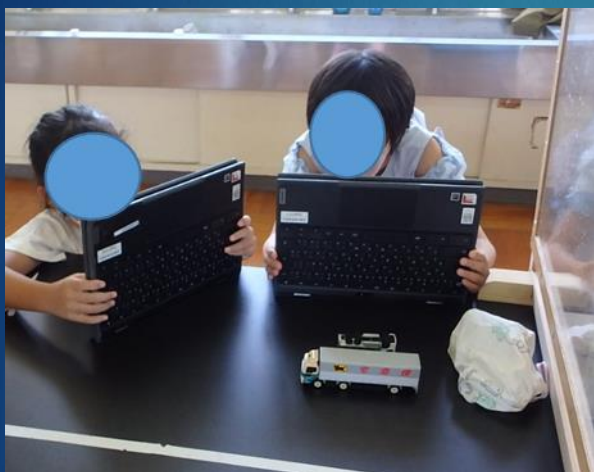


プリントより優れているところは、数字、位の部屋の枠、文を色分けできるので、視覚的につながりがわかるようになっている。

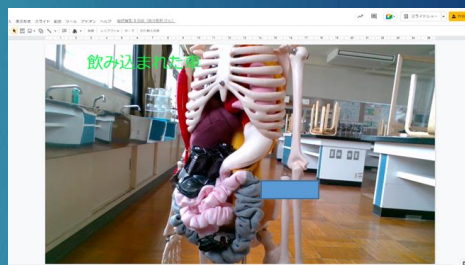
# 特別支援学級

## 自立活動「クルマフォトコンテスト」

使用アプリ：カメラ・Googleスライド

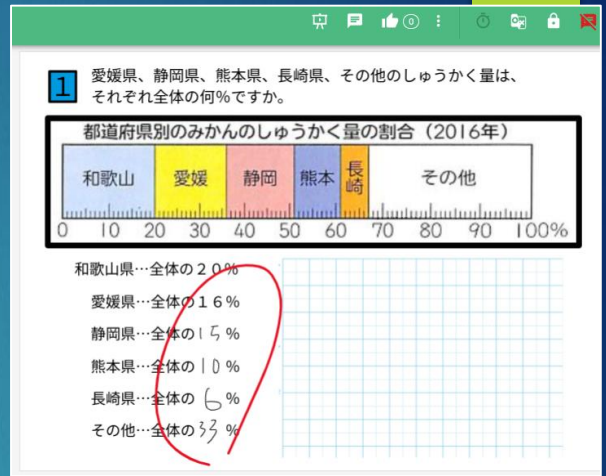


準備物は「Chromebook」と「ミニカー」。「おしゃれでかっこいいクルマの写真を撮ろう」をテーマに取り組んだ。校長室や特別教室などをグループ毎にまわり、好きな場所・構図で写真を撮った。自宅からミニカーを持ってきた子もあり、とても楽しく活動できた。



撮った写真を「Googleスライド」で作品にした。お気に入りの写真を挿入し、自分の名前と作品のタイトルを入力した。高学年が低学年に教えてあげる場面も見られた。できあがった作品は、特別支援学級の共有ドライブに保存し、相互に見合うことができるようにした。

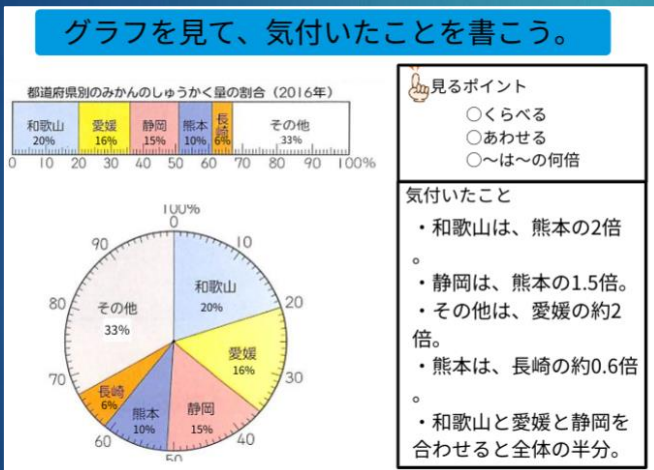
# 5年生 算数「割合のグラフ」 使用アプリ：スクールタクト・Jamboard



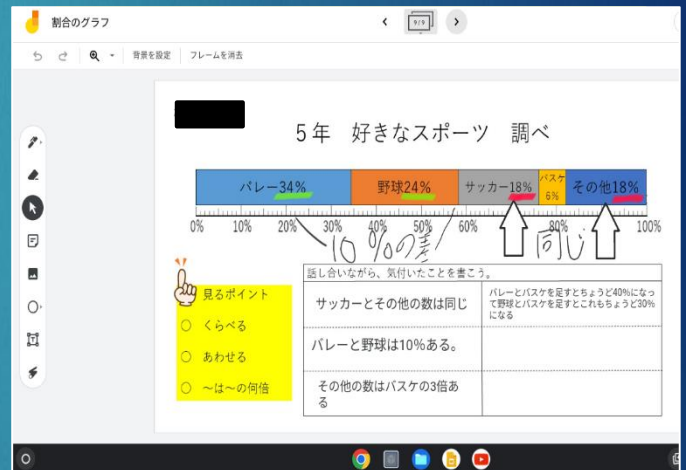
スクールタクトを使用し、帯グラフから割合をよみとった。ピンチアウトすることで、グラフの線がよみとりやすくなった。

また、計算で答えを求める児童もいると考えたため、筆算スペースも作成した。

問題ができた児童は順次提出していき、教師用タブレットでチェックしながら机間指導をしていった。



円グラフ・帯グラフのよみとりでは、各グラフの良さや仕組みを感じることができるよう、ポイントをしばってよみとりを行った。



発展問題としてクラスの好きなスポーツを集計し、帯グラフ化したものをよみとる練習をした。

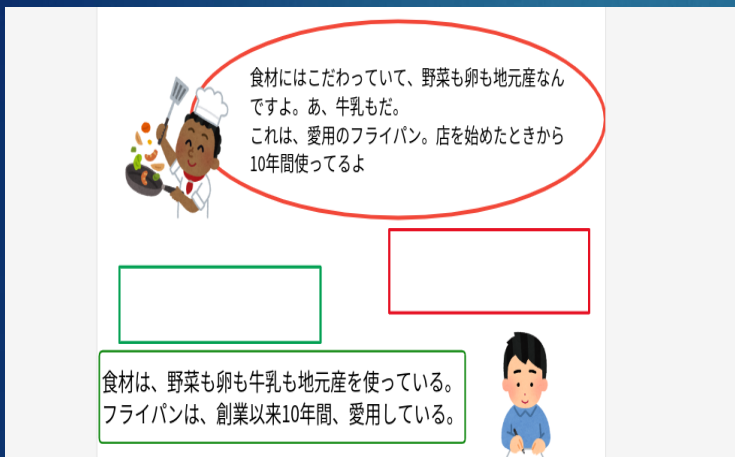
Jamboardを使ってペアで話し合い、書きこみながらグラフをよみとった。

作成の注意として、画像として挿入するとタッチすると画像が動いてしまうため、枠は背景として設定する必要がある。

# 6年生 国語「話し言葉と書き言葉」 使用アプリ：スクールタクト

1

2



教師が話し言葉と書き言葉に関する課題をスクールタクトで配布した。授業の導入では、話し言葉と書き言葉について考えた。「1」の枠内に児童が意見を書き込めるようにした。

意見を共有した実際の画面である。児童が書き込んだ意見を全員で共有することができた。

3

4



書き言葉の中でも気をつけることがあるよ  
変換できるかな？

SNSやブログ、  
友達との手紙、メール

作文や目上の人への手紙  
公式の文書

(笑)・www・草

おもしろい

めちゃくちゃ

とても・すごく

やばい

①まずい・いけない  
②すごい・見事な・立派な

っていうか

そういえば

「3」の写真は、「2」の画面をもとに、それぞれの意見を確認している様子である。

中々、交流活動をする事ができない中でも、画面上で友達の意見を知ること、自分の考えと比較しながら、より深い学びにつなげることができた。

発展問題として、「4」のような課題に取り組んだ。児童が略語として、普段から使っている言葉を書き言葉に言い換えて考え直すことができた。

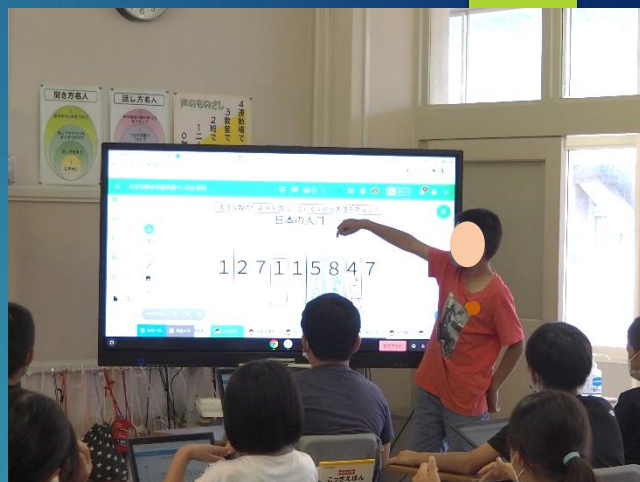
SNS等のトラブルが多い昨今において、子ども達のネットモラルにもつながる重要な学習内容であると感じた。

「4」については、スクールタクト内のテンプレートを使った。テンプレートを使うことで、教材研究の時間を短縮することができた。

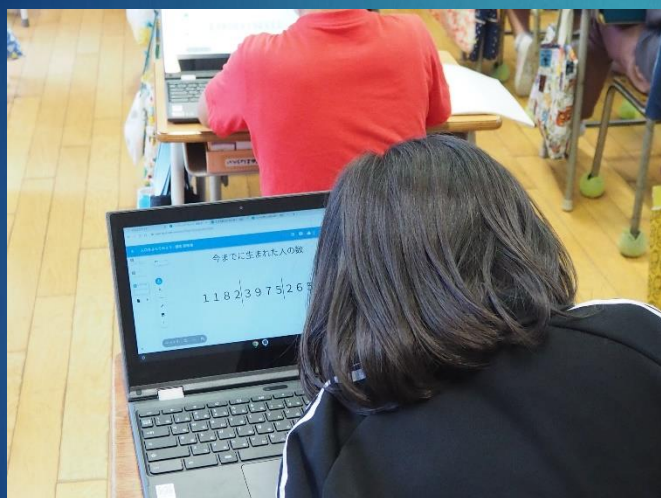
# 4年生 算数「一億をこえる数」 使用アプリ：スクールタクト



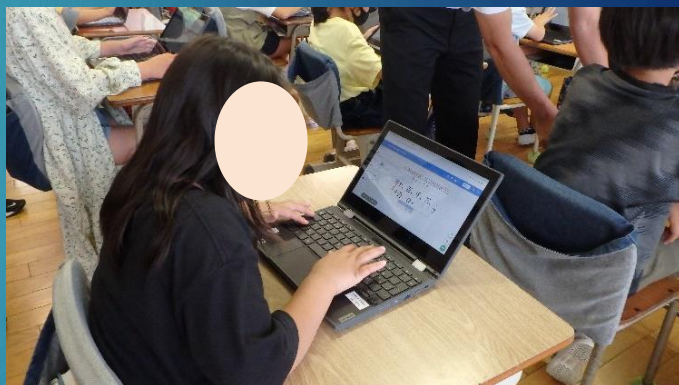
日本の人口「127115847人」と書かれたワークシートを配付し、どのようによむのかグループで考えた。



グループで話し合ったことを基にして、電子黒板を使い、日本の人口の読み方を説明した。



1億の数をこえても一、十、百、千が位ごとに繰り返されていることに気づき、大きな数のよみ方を理解することができた。



最後に、学習したことを生かして中国の人口やインドの人口の読み方を考えた。

## <編集後記>

今年度は、昨年度の流れを踏襲しつつ、より具体的な実践の紹介をしていきます。

タブレット端末の活用が活発になっていく中で、この紹介が少しでも先生方の実践の参考になれば幸いです。